



経済成長より心の成熟へ

新国 勇

浅草岳スキー場開発計画という大構想があった。山頂までゴンドラをあげ、ふもとまで一気に滑走できる大スキー場計画だ。当時は色めき立つ輩もいた。元号が平成となりバブル崩壊がおきる前のころだった。しかし、いま、こんな大開発構想を夢見る人はいない。日本じゅうがりゾート法で沸き返るなか、人口の激減、経済の低迷、スキーブームの衰退をどれほどの人が予想できたであろうか。

人類は、産業革命以降、ずっと右肩上がりの経済成長をつづけてきたという。日本では、戦後の高度経済成長を体現した世代が、あの成長をもう一度とばかり夢をみる。生活レベルが低く、人口も増加しているなら成長の余地はある。しかし、経済が安定し、人口が減っている社会となれば話は違う。株価に一喜一憂しながら、売り上げ達成に青息吐息。追い詰められて、うつ病や自死が蔓延し、将来に漠然とした不安をもっている社会。モノがあふれ、縮小している社会において、イノベーションという技術革新で経済成長をしろというのは無理難題というものだ。成長い

じるしい中国やインドも、いずれおなじ轍が待っていることだろう。

みんな、うすうす気が付いているはずだ。経済はもう十二分に成長している。暮らしにも極端な不自由はない。ただ、経済成長こそが発展の原動力とたたえ、それがトラウマとなっている社会では、言いだしにくいだけだ。これからの社会において、ほんとうに必要なのは、心の安心ではないか。衣食住が満たされた社会が求めるのは、文化の向上だろう。文化といっても音楽や絵画を鑑賞するばかりではない。友人と語り合う、家族で談笑する、スポーツや趣味に熱中するといった娯楽もある。このような心と精神の充実があってこそ安定した社会となれる。

たいせつなのは、経済成長より心の成熟である。いま、経済成長病という呪縛から抜け出し、一人ひとりが好きなことを見つけて、日々の生活を楽しんでいく。それが、グローバル化する時代を生きぬく指針になるだろうと信じている。

活動報告 (2018.1 ~ 2018.12)

1/13 新年会

民宿やすらぎ 参加14名 *6p

1/15 水鳥観察会(ガン・カモ類の生息調査) 滝湖・只見湖 参加9名

3/18 定例会

民宿ふる里 参加12名

●加藤先生講演会、ユビソヤナギ調査、月田農園訪問等打ち合わせ／勉強会「サスティナブルについて考える」

3/30 月田農園訪問

南会津町 参加13名 *6p

4/14 加藤先生を囲み懇親会

民宿ふる里 参加15名 *6p

4/15 第14回 只見の自然に学ぶ会講演会 世界自然遺産 小笠原諸島の

自然と保全への取り組み

講師 加藤英寿氏(首都大学東京)

●只見振興センター 10:00 - 12:00 参加21名 *6p

4/15 昼食を兼ね定例会 参加15名

●総会日取り、バードウォッチング、花暦等打ち合わせ

●定例会後に黒谷方面へ観察会(ユビソヤナギ・フクジュソウ等)

5/13 癒しの森花暦調査 第1回&バードウォッチング 参加14名 *7p

5/25 「只見の自然を楽しむ写真展」展示準備

明和小学校 参加5名 *8p

6/11 癒しの森花暦調査 第2回

6/16 第18回 総会

旅館みな川 参加16名

6/29 総会資料発送 参加4名

7/8 癒しの森花暦調査 第3回

8/6 癒しの森花暦調査 第4回

9/13 酷暑慰労会・定例会

ダイニングキッチンいわさき 参加18名

●次回学ぼう会、国道・県道の除草剤散布問題、亀岡護岸工事について等

10/6 癒しの森花暦調査 第5回

11/11 癒しの森花暦調査 第6回

※癒しの森花暦調査概略は *8p

11/21 忘年会

季の郷湯ら里 参加16名 *8p

11/26 「新・尾瀬ビジョンについて」意見申し立て 檜枝岐自然保護官事務所 南会津野鳥の会とともに 参加4名

*は活動報告の掲載ページです

蒲生岳山麓 調査結果

高原 豊、高原郁子

毎年、場所を変えて、環境省の里山モニタリングサイト1000の植物調査手法を用いて花暦を作成しています。2013年に只見町青少年旅行村いこいの森、2014年は要害山、2015年は季の郷湯ら里周辺で調査を実施し、2017年は蒲生岳山麓で行いました。

よく知られた蒲生のカタクリ公園から山麓を真奈川方面へ行くルートです(図1)。5月から11月の期間、毎月1回同じルートを歩いて、蕾・花・実をつけている植物を見つけて名前を記録しました。その場で種名が分からないものは標本を採り、持ち帰って同定しました。シダ類は発見時に名前が分かるものだけ、同定が難しいイネ科、カヤツリグサ科、スゲ属、コケ類、栽培種は原則として調査対象外としました。調査にはのべ32名が参加しました(表1)。

標高は概ね360m、標高差が少ないコースで、一部は畑や水田脇を通る農道となっています。カタクリ公園は下刈りの行き届いたミズナラやコナラの林で、水路脇を歩いてスギ林を抜けると、開けた雪崩斜面の自然草地、低木林があり、休耕田の湿地もありました。

調査の結果、232種(未同定を含む)が確認され、花暦を作成しました(表2)。そのうち日本海側に特有なものや保護したい植物は18種となりました(表3)。只見町青少年旅行村ではそれぞれ204種、32種(2013年調査)、要害山では227種、29種(2014年調査)、季の郷湯ら里周辺では231種、28種(2015年調査)でした。年々、確認した植物種数が少しずつ増えているのは調査精度が向上した

のかもしれませんが、山岳地ではなく里地で、雪崩地や水路脇、休耕田など環境が複雑だったためと思われます。今回は山岳的な地形がないためか、只見青少年旅行村と要害山に生育していたオオイワカガミやオオイワウチワ、アカモノ、ウゴツクバネウツギは確認されませんでした。

日本海側に特有な植物は以前の調査地と比べると少ない種数となっています。カタクリやキクザキイチゲなどの春植物は多かったのですが、里山的な環境であったためと思われます。そのなかで確認されたアズマシロカネソウ(福島県の準絶滅危惧種)は、只見町の貴重動植物には指定されていませんが、個体数が少なく、園芸的採取の心配がありますので、追加指定して保護すべきではないかと思われます。

表1 調査日と参加者

調査日	天候	人数	調査者氏名
5月14日	晴れ	5人	高原豊、高原郁子、渡部和子、新国勇、星千絵
6月12日	くもり	4人	高原豊、高原郁子、大宮明、渡部和子
7月10日	晴れ	5人	高原豊、高原郁子、鈴木サナエ、大宮明、渡部和子
8月7日	晴れ	4人	高原豊、高原郁子、大宮明、渡部和子
9月4日	晴れ	4人	高原豊、高原郁子、大宮明、渡部和子
10月8日	晴れ	6人	高原豊、高原郁子、高原朗、大宮明、菅原孝、渡部和子
11月6日	くもり	4人	高原豊、高原郁子、大宮明、渡部和子

計7回 32人



図1 調査ルート

国土地理院地図(<https://maps.gsi.go.jp>)を利用



調査のようす

表2 蒲生岳山麓の花

種名の は只見町の希少動植物、 は日本海側に特有の植物

種名	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	種名	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
ショウジョウバカマ	実							ツルウメモドキ		花					
フキ	実							ヒメオドリコソウ		花					
スギナ	実							ヒメサユリ		花					
エゾエンゴサク	花							フジ		花					
カタクリ	花	実						フタリシズカ		花					
キクザキイチゲ	花	実	実					ホオノキ		花					
アオイスミレ	花	実						ミズキ		花					
エンレイソウ	花	実	実					ヤブデマリ		花					
オオタチツボスミレ	花	実	実			花	花	シロツメクサ		花	花	花			
セイヨウタンポポ	花	実	実	花	花	花	花	ムラサキツメクサ		花	花	実	花	実	花
ツボスミレ	花	花				花		イワニガナ(ジシバリ)		蕾	花	花			
ヒメジョオン	花		花	花		花	花	ハナニガナ		蕾	花				
ミヤマカタバミ	花					花		ミズタビラコ		蕾	花	花			
ケアブラチャン※1	花	実	実	実	実	実		ハルジオン		蕾	花	花	実		
ゴマキ	花			実			実	オッタチカタバミ		蕾	花	蕾	花	実	花
センボンヤリ	花						実	オオナルコユリ		蕾					
ユキツバキ	花				実		蕾	タチシオデ		蕾					
ナガハシスミレ	花							タガネソウ		蕾					
ハイイヌガヤ	花							ヤマブドウ		蕾	実				
ハコベ	花							マユミ		蕾	実	実			実
ミズバショウ	花							コシジシモツケソウ		蕾	花	実	実		
エゾタンポポ	花							オオバギボウシ (トウギボウシ)		蕾	蕾	花			
コシノコバイモ	花							ケナシヤブデマリ			実				
スミレサイシン	花							チドメグサ			実				
タチツボスミレ	花							オオモミジ			実				
タネツケバナ	花							クマイチゴ			実				
キバナイカリソウ	蕾	花						ナルコユリ			実	実			
ネコノメソウ	蕾	花						ニガナ			実	花		花	
ミツバアケビ	蕾	花						ヒメグルミ			実		実		
ユキグニミツバツツジ	蕾	花						オオバコ			実		花	実	実
アズマシロカネソウ	蕾	花	実					ギシギシ		花	実				
ノミノフスマ	蕾	花	実				蕾	花		花	実				
ミミナグサ	蕾	花	実					ヒメヘビイチゴ		花	実				
キジムシロ	蕾	花	花	実				オオチドメ		花	実	花	実		
スイバ	蕾	花	花					ダイコンソウ		花	実	花	実	花	
カキドオシ	蕾	花	花					タケニグサ		花	実	実	実	実	実
ムラサキサギゴケ※2	蕾	花	花	花		花	花	トリアシショウマ			花	実			
ハウチャクソウ	蕾	花	花	実	実		実	マタタビ			花		実		
シオデ	蕾	花		花				オオバボダイジュ			花	実	実		
ヤマグワ			実	花				クリ			花	実	実	実	
キブシ			実	実				ヤマブキショウマ			花		実		実
サウグルミ			実	実	実			マルバハギ			花		花	花	実
スミレ			実	実				コナスビ			花	花			花
ニワトコ			実	実				アゼナ			花	花			
カエデsp			実					エゾアジサイ			花				
ヤブニンジン			実					オトギリソウ			花				
ヤマネコノメソウ			実					キクバドコロ			花				
ゼンマイ		孢子葉						キツネノボタン			花				
ミツバツチグリ		花	実					コケオトギリ			花				
イヌガラシ		花	実					コメツツジ			花				
スカシタゴボウ		花	実					ドクダミ			花				
ヒメスイバ		花	実	実				ハナヒリノキ			花				
オオハナウド		花	実	実	実			ミゾホオズキ			花				
オニグルミ		花	実	花	実	実		ムシトリナデシコ			花				
タニウツギ		花	実		花	実		ヨツバヒヨドリ			蕾	花			
サワフタギ		花	実		実			オカトラノオ			蕾	花	花	実	実
コマユミ		花	実		実	実	実	ムラサキシキブ			蕾	花	花	実	
マムシグサ		花	実	実	実	実	実	ヨウシュヤマゴボウ			蕾	花		花	実
スズメノテッポウ		花						ホナガクマヤナギ			蕾				
ウシハコベ		花						ウマノミツバ			蕾	実	実		
オニタビラコ		花						ノブドウ			蕾	花	実	実	実
サウギキョウ		花						リョウブ			蕾	花			
チゴユリ		花						イタドリ			蕾	花	実		実

種名	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
クソニンジン			蕾	花	実		
オオウバユリ			蕾	蕾	花		
ウド			蕾	蕾	花	実	実
サラシナショウマ			蕾	蕾	蕾	花	実
アワモリショウマ ※3				実			
コガネイチゴ				実			
ミヤマガマズミ				実			
アレチマツヨイグサ				花	実		
イヌナズナ				花	実		
ヘラオモダカ				花	実		
ヤエムグラ				花	実		
カラスビシャク				花			
ヤブカンゾウ				花			
アリノトウグサ				花	実	実	
ミズヒキ				花	花	実	
ニガクサ				花	花		
アカソ				花	花	実	実
ヒカゲイノコズチ				花		花	実
ツククサ				花	花	花	実
ゲンノショウコ				花	花	実	花
オニドコロ				蕾	花		
ツクシハギ				蕾	花	実	
ネジバナ				蕾	花	実	
ヤブガラシ				蕾	花	花	実
ヤマハギ				蕾	花	花	実
キンミズヒキ				蕾	花	花	実
ボタンヅル				蕾	花	花	実
クズ				蕾	花	花	
ヒメジソ				蕾	花	花	
コマツナギ				蕾	花	花	花
ユウガギク				蕾	花	花	花
キレハノブドウ				蕾	花		
ハギ sp				蕾			
コボタンヅル				蕾			
アカネ				蕾	花	花	
アキカラマツ				蕾	花	花	
オトコエシ				蕾	花	実	花
ハンゴンソウ				蕾	花		
モミジガサ				蕾	花		
キンエノコロ					実	実	
ママコノシリヌグイ					実		
ミヤマナラ					実		
ザクロソウ					花	実	
ノアズキ					花	実	
ヒナタイノコズチ					花	実	
ミチバタガラシ					花	実	
ヌスビトハギ					花	実	実
ススキ					花	実	実
ノブキ					花	実	実
イヌタデ					花		
アキノノゲシ					花		
ウリクサ					花		
ヒルガオ					花		
ヒルザキツキミソウ					花		
チマキザサ					花		
タチドコロ					花		
ヤハズソウ					花		
カナムグラ					花	実	
ヒメキンミズヒキ					花	実	
ヘクソカズラ					花	実	
メドハギ					花	実	
アカバナ					花	花	実
ヒメムカシヨモギ					花	花	実
チヂミザサ					花	花	実

種名	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
サワヒヨドリ					花	花	
オクトリカブト					蕾	花	
ツリガネニンジン					蕾	花	
クサボタン					蕾	花	実
ネナシカズラ					蕾	花	実
ツリフネソウ					蕾	花	花
カタバミ					蕾		
ヨモギ					蕾	花	実
オヤマボクチ					蕾		花
ナンブアザミ					蕾	花	実
サワアザミ						蕾	
リンドウ						蕾	花
クロバナヒキオコシ						蕾	花
アカザ						実	
カラハナソウ						実	
イシミカワ						実	
ツリバナ						実	
ヌルデ						実	
マツヨイグサ						実	
ムカゴイラクサ						実	
ヤブツルアズキ						実	
アメリカセンダングサ						実	実
エゾトリカブト						花	実
カントウヨメナ						花	実
サナエタデ						花	実
タニソバ						花	実
ヒヨドリバナ						花	実
ミヤマニガウリ						花	実
メナモミ						花	実
ハナタデ						花	実
ミソソバ						花	実
ノコンギク						花	実
ヤナギタデ						花	
タイリンヤマハッカ						花	実
ナギナタコウジュ						花	実
ゴマナ						花	実
セイタカアワダチソウ						花	実
アキノキリンソウ							実
チガヤ							実
ツルリンドウ							実
トリカブト sp							実
ヒメヤシャブシ							実
ヤマノイモ							実

- ※1 アブラチャンを含む
- ※2 7月以降の花はトキワハゼと混同の疑いがある
- ※3 分布が中部日本以西となっており、誤同定かもしれない



蒲生カタクリ公園のカタクリ群落

表3 蒲生岳山麓の特徴的な植物・注目すべき植物

種名	科名	日本固有	特徴等
ヒメサユリ	ユリ科	●	只見町指定貴重動植物、準絶滅危惧(環境省、福島県)、
コシノコバイモ	ユリ科	●	只見町指定貴重動植物、準絶滅危惧(福島県)、日本海要素の植物、春植物
カタクリ	ユリ科		只見町指定貴重動植物
キバナイカリソウ	メギ科		只見町指定貴重動植物
エゾエンゴサク	ケシ科		只見町指定貴重動植物
アズマシロカネソウ	キンポウゲ科	●	準絶滅危惧(福島県)、本州の日本海側に生育
キクザキイチゲ	キンポウゲ科		春植物、園芸的採取のおそれ
エンレイソウ	シュロソウ科		春植物、園芸的採取のおそれ
コシジシモツケソウ	バラ科	●	日本海要素の植物
エゾアジサイ	アジサイ科	●	日本海要素の植物
タニウツギ	スイカズラ科	●	日本海要素の植物
タイリンヤマハッカ	シソ科	●	新潟県から東北南部の日本海側に生育
クロバナヒキオコシ	シソ科	●	北海道と本州の日本海側に生育
ホナガクマヤナギ	クロウメモドキ科	●	本州の日本海側の山地に生育
ユキグニミツバツツジ	ツツジ科	●	北海道、本州の東北地方および中部地方の日本海側で生育
ケアブラチャン	クスノキ科		本州の日本海側の山地に生育
ユキツバキ	ツバキ科	●	東北から北陸地方の日本海側の多雪地帯に生育
ヒメヤシャブシ	カバノキ科	●	北海道・本州の主として日本海側に生育

特定外来生物に該当する植物種はありませんでしたが、生態系被害防止外来種（以前の要注意外来生物を見直したもの）に5種が該当しました（表4）。このうち、休耕田のセイタカアワダチソウ、雪崩地下部の草原に定着するセイヨウタンポポとヒメジョオンには注意が必要なようです。また、生態系被害防止外来種には該当していませんが、雪崩地下部の草原にヨウシュヤマゴボウの大きな株が多数あり、さらに増えると在来植物に影響を及ぼさないか気になります。

たくさんの春植物と、雪崩地と里山的な環境に生育する植物たちに会うことができたコースでした。

この花暦が、皆さんの自然観察の一助となるとともに、貴重な自然環境がいつまでも残っていけるように見守っていただければと思います。

最後になりましたが、調査にご参加いただいた皆さん、大変ありがとうございました。また、2019年は、フクジュソウ群落が有名な黒谷入の林道を調査する予定です。専門的な知識は不要ですので、会員の皆様のご参加をお待ちしております。

〈参考文献〉

会津只見の自然 只見町史資料集第4集【植物編】（只見町史編さん委員会, 2001）、レッドデータブック2014－日本の絶滅のおそれのある野生生物－8 植物 I（環境省, 2015）、学ぶ会通信 vol.9, vol.10（只見の自然に学ぶ会; 2015, 2016）、改訂新版 日本の野生植物1～5（大橋広好ほか, 平凡社, 2015-2017）、環境省ホームページ（<https://www.env.go.jp>）、国立環境研究所ホームページ（www.nies.go.jp）、国土地理院地図（<https://maps.gsi.go.jp>）

表4 蒲生岳山麓の生態系被害防止外来種

定着を予防する外来種	
該当なし	
総合的な対策が必要な外来種	
重点対策種	特に問題となる地域や環境
セイタカアワダチソウ	湿原・湿地
セイヨウタンポポ	自然草原や高山
その他の総合対策種	特に問題となる地域や環境
アメリカセンダングサ	湿地
ヒメムカシヨモギ	海浜
ヒメジョオン	山地や亜高山帯の草原

環境省ホームページ：生態系被害防止外来種リストより
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>



アズマシロカネソウ

2018年活動報告

学ぶ会新年会

2018年1月10日 民宿やすらぎ 参加14名

只見らしい雪のなか、新年会を行いました。

テーブルの上には数々の心こもった手料理が並べられ、ビール・日本酒・ワインが入れば盛り上がりがないわけがありません。さらに渡部民夫さんによる熊撃ちの多岐にわたる話に大盛り上がり（知識も蘊蓄も半端ない！ 初めて聞く話へー、ホーの声多数）。熊撃ちの話にとどまらず、家で飼っていたクマ・ムササビについて、はたまたクレ射撃・銃についてと縦横無尽に話が飛びます。

気がつけばあっという間に3時間がたっていました。

次々に出てくる料理はどれもおいしく、これぞ「おもてなし」の心意気を感じ、お腹いっぱい口福。

気がおけない仲間たちとの楽しい会話に心も癒され、大満足の日でした。悪天候のなか、送迎をしてくださったやすらぎさんに感謝です！（伊豆）



月田農園に行きました

2018年3月30日 南会津町 参加13名

月田さんが毎日スノーモービルで通っている道はあまりぬからずに長靴でも歩け、冬芽や動物の足跡を観察しながら散策を楽しみました。

歩きはじめるとタヌキの足跡と糞、それにキツネの糞。見つけるたびに盛り上がる私たちに「そんなに糞に興味あったのかー」と笑われつつ、糞に混じるグレーの毛のようなもの、山肌落ちる動物の毛を見つけ、なんだろうかと不思議がる月田さん。

進むとカモシカの骨が！

「この前まで良く見かけた2頭のうちの1頭かもしれないー」と月田さん。

「かわいそうだけど周りの動物たちはこのおかげで助かったらろなー」と聞くと考え深いです。新しいカモシカの足跡があったのでもう1頭は無事なようです。



カモシカの骨

なにもなさそうな雪道もよく観察すると発見がたくさんありました。おいしかったヤマナシの実、オオバボタイジュの葉の形、ミズメの木の香り、オニグルミの芽の下のオナガシジミの卵、鉄の循環の話、一人で行っても気づかないことをいろいろ教えていただきました。

11時半に農園の小屋に到着。朝一度来たからと、薪ストーブの焚かれた暖かな部屋でお弁当と奥様手作りのぼたもちをおいしくいただきました。

午後は農園のなかを案内してもらって、チャイロスズメバチの話やメダカやミズバショウを見ることができました。雪にぬかって転ぶ人がいましたが、ケガなく3時に無事終了。月田さんの話は楽しくて、たくさんのお話を学ぶことができました。ありがとうございました。（こずえ）



第14回 只見の自然に学ぶ会 講演会「世界自然遺産 小笠原諸島の自然と 保全への取り組み」

2018年4月15日 10:00 - 12:00

只見振興センター 参加21名

講師 加藤英寿氏(首都大学東京)

まずは、前夜の加藤先生を囲む懇親会の報告です。

懇親会は前日の夕刻、「民宿ふる里」で先生を含めて15名の参加で大いに盛り上がりました。とにかく先生を質問

攻め。印象に残ったのは「小笠原と只見はある意味似ている」ということ。これは講演会の際にも具体的に話されましたが、他と隔離されていたからこそ残ったものがあるということ。それと、地元の人（Iターンが多い）が熱い。今日のメンバーを見ても「とても普通じゃない！」ところも同じだそうです。それから、やはり子ども時代の感化が重要。先生は小学生時代の先生の影響で今の道に進まれたそうで、「中学校、高校では遅すぎ！」と言われました。

講演会は、只見復興センター1階学習室で参加者21名。菅家町長も執務の合間を縫っていらしてくださいました。司会進行は伊豆富子さん。新国代表あいさつで、只見で講演会をする意義について、「小笠原諸島の保全への取り組みが只見の自然の保全にとっても参考になるだろう」ということが述べられました。

先生はとても話し上手で、「勉強会なので難しい話もしますよ」とおっしゃいながらも、冗談を交え、とても濃く充実した2時間でした。

大雑把にまとめると、小笠原諸島は過去に一度も大陸とつながったことがないゆえの特異な生態系が「進化の実験室」として認められて世界自然遺産に登録されたこと。その具体的な事例がいくつも紹介されました。ところが、小笠原の自然はかなり破壊されていて、外来種の駆除事業等様々な保全への取り組みが行われているそうです。しかし、実は人為の及ぶ前の自然がほとんどわからないので目標もわからないのだとか。唯一、人が定住したことのない南硫黄島みなみいおうとうにその自然が残されているようで、その学術調査のビデオも見せていただきました。1年がかりの準備を経ての、南海の絶壁の孤島に挑む冒険のようなサバイバルのような内容でした。他には、人が持ち込んだネズミで絶滅した海鳥が南硫黄島では繁殖していて、海洋島における本来の生態系、水域と陸域のネットワークが維持されていること。

ビデオでは、オガサワラオオコウモリが可愛かった！天敵がないから地面を這い、爪で木登りをし、タコの実を食べていました。

只見との共通点が、他と隔離されていたことによる特異



講演される加藤先生(中央)

な生態系が残されていることとしたら、違う点は小笠原は人の歴史が浅いのでまだ固有といえるような伝統文化が発達していないことです。ということは、小笠原はBR（ユネスコエコパーク）にはなれない。（恵子）



花暦調査& バードウォッチング報告

2018年5月13日 布沢癒しの森 参加14名

しとしとと雨が降る中、布沢癒しの森にて観察会が行われました。参加者は、大人12名と幼児2名の計14名。すでに観察会経験済みの我がちびっ子2歳児と生後約半年の乳児も初参加です。

マニアックな我々集団を感わすかのように出迎えてくれたのは「カ、カ、カ、カ、カカカッコー」??? どもり気味でひょうきんな鳴き声のカッコウでした。小雨が降っていたこともあり、鳥の姿はまったく捉えられず、双眼鏡も出番がないままでしたが、キビタキ、イカル、ヒガラ、コガラ、サンショウクイ等のさえずりが聞こえてきました。その他、私には聞こえなかったのですが、ヤブサメ、シジュウカラ、ハシブトガラス、ホトトギス、アカゲラ等もいたようです（合計12種の鳥の鳴き声を確認）。

初めて聞いたアオバトの鳴き声は、動物の遠吠えかと思うような特徴的な声で、これは次に聞いてもわかりそう。

花はというと、癒しの森入口から順に花が下向きに咲いていたモミジイチゴ、鮮やかな濃い紫色のスミレ、オオカメノキの白い花、枝が黒いオオバクロモジの花、そしてみなさんが注目していたのは、小さくて見落としてしまいそうなツノハシバミの赤い花でした。

最も印象に残ったのは、ブナの芽生えです。この小さな芽から樹齢300年を超す大木が育つのかと思うと、可能性がいっぱい詰まったこの芽生えがとても力強く、尊く感じられます。

9時半過ぎに出発し、雨にも負けず、癒しの森の終点まで行き、折り返し戻ってきたのは12時半頃。驚くことに2歳の幼児は、肩車で少しラクをしたものの、往復自分の足で歩き通しました（我が子ながら恐るべき体力!）。

ポケットをどんぐりや葉っぱでいっぱいにし、小さな虫

やキノコを見つけては立ち止まり興奮し、雪の重みで変形した樹木にぶら下がる等、思うままに楽しんでいた様子…。ちびっ子の手を引き、相手をしてくださった皆様、本当にありがとうございました。

終わりに、小林にある五十夢にてラーメンや定食を頂き、今回も心身ともにお腹いっぱいのお観察会となりました。
(ナカノトモコ)

癒しの森花暦調査概略

2018年5月～11月

2018年の癒やしの森花暦調査は、5月の第1回をバードウォッチングと兼ねて開催したこともあり、延べ42人の参加がありました。只今、調査結果を取りまとめ中ですが、森のなかだったためか、草花の種類は少ないようです。

今年2019年は黒谷入の林道で調査します。春のフクジュソウのあとにはなにが咲くのでしょうか？ 興味津々です。どうぞお気軽にご参加ください。

(ゆたじー)

調査日と参加人数

調査日	人数
5月13日	14人
6月11日	6人
7月8日	4人
8月6日	5人
9月10日	4人
10月6日	3人
11月11日	6人

計7回 42人



〈布沢癒しの森花暦調査5/13から〉 左上から、モミジイチゴ、オオカメノキ、オオバクロモジ、ツノハシバミ (小さな赤い雌花と垂れ下がる雄花序)、ブナの芽生え

「只見の自然を楽しむ写真展」in 明和小学校

2018年5月25日 展示準備 参加5名

明和小学校で行う写真展の準備を行いました。展示パネルの取り付けはとても難しく四苦八苦しましたが、先生方のご協力を得ながら無事に作業を終了できました。



写真の展示期間は半年くらいの予定です。生徒のみなさんには、只見町の自然に親しみながら、またふだんの生活の中で自然の面白さを発見し、楽しい学校生活を過ごしていただきたいなと思います。
(かな)

学ぶ会忘年会

2018年11月21日 季の郷湯ら里 参加16名

学ぶ会忘年会は、柄にもなく入院したヤマサ社長、弘アンニャの退院祝いも兼ねての飲み会になりました。

乾杯はゆたじー、万歳は荒川先生。途中から只見史談会の忘年会にでていた古川さんも加わって、わいわい盛り上がりました。終わりのころ、「はあ、2時間もたったのがや？ おら、30分くれえしかたった気がしねえ」とは、俊行アンニャの感想。そのくらいおもしろくて、よがった、よがった。

(イサム)

会員からの只見自然情報

学ぶ会メーリングリスト(2018年1月～12月)より

1/15 謹賀新年

新年明けましておめでとうございます。やっと太陽が顔を出しました。大雪らしい年明けです。玄関開けてたら早速、珍しい年始客がまいりました。ジョウビタキの雄です。(和子)



1/12 今朝のオライの泉水

今朝のオライの泉水(池)だあ。パーカきれいな冠雪だったんで、パシャリ。日本海側は大雪っじゅうごんだが、ここ只見は朝からいー天気で真っ白な雪と青空が目痛てーよーだ。(イサム)



1/26 ツグミ

「雪いっぺーふんなー」が挨拶となっている叶津です。番所の庭でツグミが流水で溶けた土の間からエサを探したり、雪の隙間で休んだりしていました。(こずえ)



1/26 只見が積雪3位

さっきなの気象庁ランキングで、積雪の深さでは、只見が第3位だぞや。1月26日午後7時現在で245センチ！

つも酸ヶ湯が一番だども、あれは標高925メートルの山の上にある一軒の温泉宿。たまたま、アメダスが設置してあるだけだべ。人が住んでいる場所での記録にしてほしいな。雪が深けーど、人情も深けーぞ。そして、なんといっても、自然が奥深けーぞ。(イサム)

2/6 湯ら里のシロクマ?

おら、いま、湯ら里の男湯の露天風呂にいつつおや。湯さ入ったら、目の前さ、ぱっかでっけーシロクマがいんだわや。おもっしえーがら、写真、見でくんつえ。(イサム)



2/14 吹雪がやんだら

叶津は屋根からシロクマが覗きこんでます。川を目指して歩く大きな足あととはカモシカかな。(こずえ)



2/15 ゴジラ襲来か?

屋根の上に不思議な雪の芸術が！シロクマを追って来たのか、只見にゴジラが現れたか?! 今日15日は、どこか

に行ってしまいました。自然って不思議でスゴイですね。(シガ)



3/21 カタクリ開花予想選手権

お待たせしました、今年もやります！家の西側でカタクリが芽を出しました。このカタクリの最初の一輪はいつ開花するでしょうか？いつものように正解者には豪華賞品(タラの芽ほか)を差し上げます。参考までに、13年は4月14日、14年は4月13日、15年は4月16日、16年は4月1日、17年は4月14日でした。皆さん奮ってご参加ください。



4月1日追伸……カタクリの蕾が霜や低温にやられてしまったと思われます。今さら他の個体に変えられませんが今年中止とさせていただきます。3回目にして1番の参加数だったのに残念です。自然相手では仕方がないですね。(あーきらー)

3/28 クサギカメムシをサシガメが……



窓から外に出ようとするクサギカメムシをサシガメが捕まえて口吻?で刺して体液を吸っているところです。マクロレンズで撮りました。このサシガメの名前を知りたいので投稿しました。只見では普通種だと思いますが、図鑑で調べても特定できません。

(あーきらー)

このサシガメには自分も刺されて非常に痛い思いをしました。詳しいことはわからないのですが、「オトビサシガメ」でしょうか？ (カナ)

3/29 アトリ、アトリ!

今朝、窓にガンとなにかぶつかる音がしたので外を見るとアトリが落ちていました。

早速カメラを持って外に。これはブナセンター送りで剥製かなと思いましたが、とりあえずクリの切り株に置いておきました。1時間半くらいで回復、飛び立っていきました。体重を測りそこない、残念でした。(あーきらー)



4/6 キセキレイ初見

散歩の途中でした。キセキレイが2羽、ついででしょう。黄色がきれいです。そろそろもう一つの黄色、キビタキも見られそうですね。(あーきらー)



4/19 咲いた♪咲いた♪

午後、長浜の5人で黒谷に行ってきました。キタコブシは5、6分咲きでした。

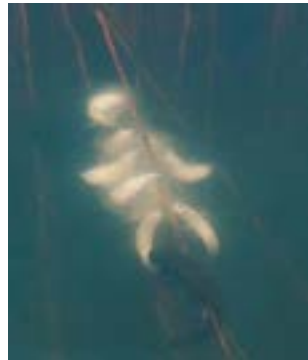


水田脇の赤みの強いカタクリも健在、キクザキイチゲ、フクジュソウも同時に咲いていました。田んぼにはヤマアカガエルの卵が。そしてハイライトは奥のフクジュソウ群です。去年は4月25日に訪れていますが、その時よりも下の土手で咲いている数は多いよう

す。昨年より残雪は多いです。遠くでオオヤマザクラが咲いていましたし、ブナも芽吹き始めました。いよいよ只見の春ですね！ (あーきらー)

4/26 クロサンショウウオ

毘沙沢にも遅い春が訪れています。山は、きれいな色がパッチワークのようです。そして、今朝は楽しみにしていたクロサンショウウオの産卵日。(毘沙沢)



4/28 Eureka! (我、発見せり)

Eurekaとはアルキメデスがかの有名な原理を発見した時に叫んだ言葉といわれ、日本語で言えばユリーカとかユリイカとか発音されます。さて、今日カタクリを見て歩いているとなんと、なんと…、白いカタクリです。調べたところ数万から10万株に1株と出ていました。只見のネイティブでもなかなか見たことがないのでは？ 混じりけのない白のカタクリ、ご覧あれ！ (あーきらー)



5/17 郵便受けに…

きんなの夕方、帰宅していつもの習慣で郵便受けを開けたら…ん、なにか奥に細長いものがある…。マムシに似た模様ですが、顔が違います。ヤマカガシの子どもでしょうか？



息子と一緒にさんざん写真を撮っていると、なかで上の方に登って、隙間に入って見えなくなってしまいました。金属製でツルツルなのに！(ゆたじー) 先週からよくヘビを見るようになったけれど、まさか郵便受けとは、驚いたな一。ゆたじー、このヘビは、アオダイショウの子めらだべな。たぶん郵便受け近くに門灯かなんかねーがや？ その灯にやってくるカエルや虫を、郵便受けの中で待ちがめーでだんであんめーが。(イサム)

5/20 シオデに卵

学ぶ会の決算作業をしながらふと窓の外を見ると、ルリタテハがせわしく飛んできてシオデに止まりました。出て行くと飛び去ってしまいました…。風が吹いたためピントぴしゃりではありませんが、卵らしいということで撮影したところ卵で間違いなさそうです。なお、ルリタテハはサルトリイバラ(シオデ属の樹)などに産卵と書いてありましたので、シオデに産卵してもおかしくありませんね。(あーきらー)



5/20 天頂一直線!

飛行機雲がまっしぐら!

午後6時過ぎ、車を車庫にしまおうと、外さ出たら、青空に超でっけえ、飛行機雲！ 西から東にかけて途切れなし。しかも、一直線で長ーい。こだあな、久々に見だな。(イサム)



5/22 アオダイショウとヒキガエルの攻防

ドジなアオダイショウの写真です。子どもなので身の程を知らず、アズマヒ

キガエルの右後ろ脚に咬みつきました。引き上げようとするアオダイショウ、池に降りようとするヒキガエル。十数分の攻防の末、カエルに軍配が上がりました。ちなみにヒキガエルは13日に池に来て19日には全て森に帰りました。今年は卵が少なかったです。

(あーきらー)



6/2 コウノトリ情報

礼次郎あんにゃに気一つかって黙っていただも、はあ、よがべやど思って情報流すぞや。

先月から南会津町南郷地区にコウノトリが来てんだ。はじめは池んながのフナ食って、満腹になると、近くの広報無線のてっぺんさ止まるといごど、繰り返してだ。いまは、そこのフナも食い尽くして、ほうぼうの田んぼさ、ドジョウを食いに飛びまわっでる。この写真は、じっどしで田んぼの畔さいだら、コウノトリのほうがら近づいてきて、ポーズを決めてくっちゃあんだ。300mレンズで、2mぐれえ近寄らっちゃんんだがら、ドアップになっちゃった。ツルぐれえでつけえがら、このクチバシでつつがっちら、たまんねえなと思ったぞや。



しかし、田んぼにドジョウが多いのには、たまげだな。めくらめっぽう、ついでいんだが、あんがい、簡単に捕めえられっちもうな。なお、このコウノトリの名前は、「きずな」どっちゅう。千葉県野田市で放鳥されだあんだ。野田市

ホームページを見っと、現在位置まで表示さっちゃんぞや。(イサム)

6/6 ぐるぐる巻き

畑の脇の側溝でシマヘビがぐるぐる巻きになってました。10分後くらいでしょうか、ぐるぐる巻きを解いてどこかへ行ってしまいました。2匹かと思ったのですが、よくわかりませんでした。(ゆたじー)



ゆたじー、これってシマヘビの交尾だべした！ オス、メス2匹がしめ縄みてえにからみあって長い時間やってんだ。動画、撮ってもらいだがった。うまぐすっと、シマヘビのチンチンも見らっちゃんもしんにえ。オラも見だがった！(イサム)

6/6 クワガタ!

ぼーっと家の中を歩いていたら突然足に痛みが。驚いて足を振っても離れず、ナニゴトかと良く見てみれば。

……え？ コクワガタ？(朗)



6/7 夜の訪問者

おとといの晩、2階の窓を外からバタバタと叩く音がして、なんだろうと思ったら、青白い影が…。オオミズアオでした。大型のがでは一番最初に飛んできますねー。(ゆたじー)



6/11 木さ、生みつけらっちゃんモリアオガエルの卵

ここは蒲生、真奈川の池。毎年、池にはりだしたシロヤナギの枝さ、たわわに卵塊を産みつけていたあんだも、今年は枝がなくなっちまって、幹だけになってだ。そんじえ、仕方なくじゅうわけでもあんめえが、写真みでえに幹さ、たくさん産みつけらっちゃんいだぞや。ちっと見慣れねーあんだっただで投稿しておくぞや。(イサム)



6/15 クリの花に…

クリの花が徐々に咲いてきました。ブナは豊作のようですがクリはどうでしょうか。本日夕刻、隣のハマさんと立ち話をしているとクリの花になにか飛んで来るものが見えました、チョウです。見ているとどうもアレ、アサギマダラらしい。で、カメラ、双眼鏡を持ってきてもらい、4人で観察会を1時間くらいしました。クリの花の蜜も吸うんですね。(あーきらー)



6/19 なんというチョウ?

某所で立っていたところ、数頭のチョウが飛んで来て、その内一頭が地面にとまり、きれいだったのでスマホで撮りました。逃げる様子はなかったです。なんというチョウでしょうか？(ハマ)最初に見た時は国蝶のオオムラサキかと思いましたが、コムラサキのようです。川沿いのヤナギ類が好きで幼虫

はヤナギの葉を食べて育ちます。チョウはヤナギやコナラの樹液を吸います。動物のフンや尿にも集まるそうです。きつとそんな環境で撮れた写真かな？ 只見にはヤナギが多いのでコムラサキも珍しくはないと思いますが、私は見たことがありません。(あーきらー)



6/24 アオバト

和泉田のHくんから連絡があって、引き取って来ました。山裾の用水路で死んでいたのを発見したとのこと。出血はないものの、背中の羽根がなくなっているのが残念。猛禽に襲われたのではないかとのこと。

とりあえず冷凍して、そのうちに仮剥製にしよう。(ゆたじー)



アオバトの羽が抜けんのは、NHKの「ダーウィンが来た」でやったときあんぞや。アオバトは、ハヤブサみでえな猛禽類に体当たりされっど、当だった場所の羽を、ゴソツド抜いちゃうだで。衝突の瞬間、アオバトは花火みでえにパツとわーが羽根を散らしちもう。そうすつと、散った羽で滑っちまって、ハヤブサはアオバトを捕り逃がちもう。アオバトは、トカゲがわーがしっぽを切って逃げるみでえに、羽根をわーがら抜ぐごどで、猛禽類の攻撃を交わしでんだで。

「そんじら、なんで死んでいだのが？」だど？ そごんごでは、わがんねえな。まあ、アオバトの作戦が失敗したच्चゅうしか、あんめえな。(イサム)

6/25 壁にアオゲラが開けた穴をリユース

ヤマガラが今子育ての真っ最中です。

3つ見える穴は冬にアオゲラが開けた穴で、このうちの1つを利用して今年2度目の繁殖活動をしています。巣箱をかけているのに、よりによって壁の穴の再利用とは…。

追伸。昨日、子育ての真っ最中とお伝えしたヤマガラは全て巣立ちました。真っ最中ではなかったのです。ハチが穴を利用するのが怖くてガムテープを貼ったところヤマガラがなかで騒いだのですぐに剥がしたガムテープを、やっと安心して貼ることができます。

(あーきらー)



7/1 ホタルと星空

ゲンジボタルの最盛期の頃なので、黒沢に行ってみました。ゲンジボタルは20匹ぐらい、ヘイケボタルが10匹ぐらい飛んでました。ヘイケボタルは今年初確認です。ゲンジボタルは少ないですね。星空もきれいでした。(ゆたじー)

7/3 ツマグロヒョウモン

先ほどきれいなチョウを捕まえて調べたところツマグロヒョウモンの♀でした。もともと南方のチョウですが、温暖化やパンジーを食草にするとかの理由で分布を北に拡大しているとのこと。メスグロヒョウモンと同様♀が美しい。♂は大阪のおばちゃんの豹柄(ヒョウモン)です。都会では普通に見られるようになったそうですがすでに只見でも普通種なのでしょうか？

(あーきらー)



ツマグロヒョウモンは只見では10年以上前から確認されでんぞや。それがアンニャのいうとおり、いまや普通に見られるチョウになっちゃった。しかし、これは黙ってらんねえ由々しき事

態。おらだちも含めて、先人の化石燃料の使い放題、大量生産と大量廃棄の悪循環。結局は、経済成長とお金のこどばかりで、こだに先のない地球にしちゃった。このまま行っちもうど、将来、おらだちの子めらが安定した生活を送れるかどうか心細え限りだ。ツマグロヒョウモンが普通に見られるようになったच्चゅうごどは、異常を知らせる「警戒警報」च्चゅうごどだべや。こだごどあつと、まっとまっとサステイナブルを進めんなんねえなど思ってんぞや。(イサム)

7/5 只見にハチドリが…!?

ハチドリがいる訳ないですよ。さて、一般的に昼間飛ぶガ=チョウだとしたら、これは昼間飛ぶけどれっきとしたガです。花盛りのオカトラノオに吸蜜に来ます。羽ばたきながら空中に留まるホバリングまで映像で見るハチドリにそっくりです。ストローのような長い口も見てください。スズメガ科のホシホウジャクのような食草はヘクソカズラ！ なお、シャッタースピードは4,000分の1秒です。1秒間に一体何回羽ばたくのでしょうか？

(あーきらー)



このガを見つけっど、よく連絡をもらうぞや。「ハチドリがいた！」च्चゅうあんだ。んだども、本物のハチドリを見た人はいねえはず。みんなテレビで知っでるだけなんだもな。

ただ初めて見たときの感動は、センス・オブ・ワンダーだべな。これをハチドリがいだどって喜ぶ人、オラは好きだなあ。(イサム)

7/8 7月の花暦調査

癒しの森での調査の報告です。参加者は4人でした。目立ったのはクルマユリ、オニノヤガラ、シャクジョウソウ、オオバボダイジュの花などです。イチヤクソウはつぼみが多かったです。(郁子)

7/14 猫淵清水

恵みの森の入口と大田の猫淵清水へ自転車で行ってきました。猫淵清水は只見でもっとも水量豊かなおいしい清水ですが、今日は水神様(?)へのりっぱなお供えが。御幣の一種でしょうか。使われている木はユキツバキ? 大田のどなたかがつくられたのでしょうか、非常にきれいな造作です。(クマクラ)



猫淵清水にあった謎の御幣についてわかったんで報告しんぞや。

大田集落で猫淵清水の水を使って簡易水道施設を建てることになったんだそうだが、その清水を分水するようになって、水が涸れないで湧出するのを祈願するために、田島の神主頼んで拝んでもらったんだっちゅうごんだ。また、只見では櫛の木がねえが、代用としてユキツバキが使われんだ。しかし、いままで大田集落では、家ごとに、別々の沢水を引いて飲料水や生活用水として使っていたんだ。これぞ、究極のサスティナブル。これなら、どだ自然災害があつたって、どつかの一軒の水源があれば集落みんな利用できるところになる。便利さと効率、そしてコストばがりを最優先にする現代社会。関西地方の激甚災害を見るにつけ、あまりに人間万能にしてきたツケが回ってきた気がしんな。

なんて、いっちょめーな口きいても、便利なほうがいいに決まってるべ! だって言われっちまいそうだな。

(イサム)

7/14 長い脚のあるイモムシ

鉢植えのブナの葉っぱを食いまくってたイモムシなんですけど、イモムシらしくらぬ立派な長い脚がはえてました。ちょっといじったら威嚇してのけ反り、シャチホコのポーズ。この見た目からシャチホコガと言うそうです。幼虫に

毒はないそうなので、よく観察しました。しかしホントにおもしろいイモムシ!(マズミ)



7/17 ヒアカシ、捕ったぞー!

大田集落のある家さ寄って、猫淵清水の話の聞いたあど、外さ出たら、庇の上さ赤と黄色と黒のきれいな鳥らしきあながある。叩いで落としてみたら、なんと、キビタキの雄でねーの。赤い喉と真っ黄色の腹、上尾筒、そして眉斑。あとはすべて真っ黒。



只見では、この鳥をヒアカシどって呼んでだだ。目立つ赤い喉を、火明かしに例えだんでねーがど思っでんだ。それにしても、声よし、姿よし。天も二物を与えるっちゅうごどあんだな。きょういちばんの収穫!

キビタキを家さ、持ち帰って、秤で重さを量ってみだ。たったの12グラムしがねえ。これは、10円玉3個より軽い。こだ軽くて、か弱い小鳥が、東南アジアがら何千キロもの旅をしてくんだがらたいたもんだあと、いたく感心した次第。(イサム)

7/30 伝書バト

今朝、伝書バトが助けを求めて我が家の窓を叩きました。ブナセンターに協力を求め、足環の情報から飼い主に連絡を取り、夕方飼い主が引き取りに来てくれたようです。訓練のため燕三条で放し、山形県南陽市まで戻るはずが、なんらかの原因で毘沙沢に迷い込んだようです。今年生まれの幼いメスでした。

それにしても、燕三条から高い山を越

えて毘沙沢まで来てくれたのですね。(毘沙沢)



私も2回迷い鳩を保護しました。どちらも西日本からで、1羽は疲れ果てて夜はぐっすり眠ってしまいましたが、翌朝餌を食べてくれて安心しました。日通の鳩便があつて送りました。迷い鳩は猫に襲われることもあるので、見つけたら保護してあげたいですね。

(ハルコ)

只見町は山に囲まれていて、伝書バトにとっては難所なのかもしれませんね。子供のころ伝書バトを飼っていて、今回五十数年ぶりに手に抱いたら、なんだか小さく感じました。よくよく考えたら私の手が大きくなってたのだと気が付きました。(毘沙沢)

7/31 只見が県内一暑い!

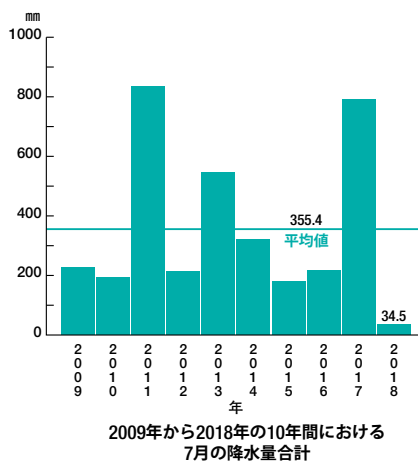
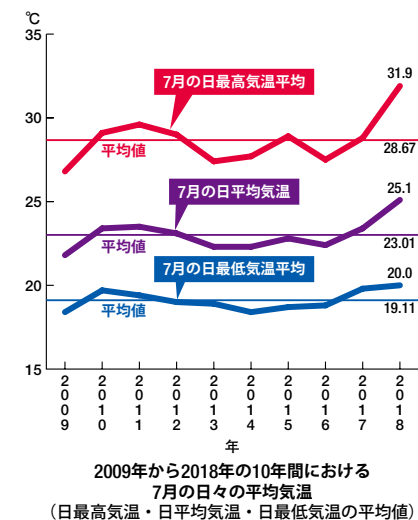
ねっか、は一、あんな暑っちゃくて、なにもしたぐなぐなっも一な。とくにきんなは、暑っちゃがった。

今朝の民報新聞、見でたら、な一んと、只見が36.2度で県内一暑かった! 只見では7月の観測史上最高だそう。ちなみに第2位は、喜多方市の35.5度。北にいくのが当たり前の台風が西に向かったり、となりの三条市が39度の記録更新となるなど、あり得ねえごどばっか。今年は、世界中で、熱波の被害がでている。異常気象は、はあ、異常ではなく、想定外にいつでもあり! っちゅうごどになってきたんであめんえが。(イサム)

暇なわけでもないのですが、この7月はどんだけ暑くて、どんだけ雨が少なかったんだろうと思ひ、気象庁HPの「過去のデータ」からグラフをつくってみました。

2009年から今年まで10年間の7月の平均気温と月間の累積降水量です。次ページの上の図で驚くのは、日最高気温・日平均気温・日最低気温ともに、それぞれ30℃、25℃、20℃の大台をはじめ超えていること(たとえば日

最高気温というのは、このグラフでは7月の毎日の最高気温の平均値ということ。とくに日最高気温の平均が31.9℃というのはダントツの高さです。続いて下の図ですが、今年の7月はなんと34.5ミリしか降っていません。平均の10分の1です。豪雨で大きな被害の出た2011年と昨年を除いても200ミリ前後の雨は降っていたのですから、今年の7月の雨が極端に少なかったのがわかります。(クマクラ)



8/9 カワラヒワが鳥好きにしてくっちゃん

朝日保育所の先生から黄色の目立つ鳥が落ちてるっちゃん電話もらったんで、行って来たぞや。カワラヒワの雄の成鳥だっけ。地味で、なんの特徴もねえ鳥だども、羽を横切る黄色の帯が、ばーが鮮やか。

思えば、おらが初めて鳥の名前を覚えたのは、このカワラヒワだっけ。高校3年の夏、校庭からキリキリ、ジーンとうるせえほど鳴いている鳥が、カワラヒワだどわがったときのうれしさは忘れらんねえな。そごから、おらの鳥人生が

スタートしたと思っぞや。あれから、はや42年。年とったな。そんなわけで、しばらく感慨深く、いじったあど、写真に撮ったぞや。(イサム)



8/12 イヌワシだんねーの!

きょうの午後3時半ころ、只見川の上空で、数羽のワシタカが飛んでだっけ。トビはすぐわがっけが、どうも空高く旋回するワシタカが気になる。しばらく見でたら、柴倉山のとっぺんあたりから柴倉橋の下流上空へと飛んだ。幅広い翼と長い尾、黒っぽい下面。イヌワシだ! 成鳥! 2羽で飛んでる! そごさ2羽のサシバがイヌワシめがけてモビング(擬攻撃)し始めた。やっば、でっけえ!

しかし、どんどん空高く飛んでぐもんだがら、双眼鏡でやっと追える程度になって遠くの山の方さ行って、見えなくなっちゃった。奥山でしか見らんねえ鳥だども、繁殖が終った7月から8月にかけてはきょうのように里のほうさ降りくるどぎがあんだ。ただ、見るには、双眼鏡がねーどむずがしいな。(イサム)

9/4 ガガイモの花



只見川沿いの土手の草っ原で、ガガイモの花を見つけた。花びらの内側は、フェルトみでえにやわらかで、色もシック。茎や葉っぱをちぎると白い汁が出る。花といい葉っぱといい、つる植物のなかではなかなか趣があると思っただあ。(イサム)

9/7 ハグロトンボ

ハグロトンボが飛んでいました。真っ黒な羽のカワトンボを叶津で見たのは

初めてです。スグリの葉の上にとまったので写真を撮ることができました。

(こずえ)



9/7 黒ツグミ

お昼前に窓ガラスにぶつかりましたが、しばらくお休みしてから森の中に戻っていきました。黒ツグミの幼鳥ですね。(昆虫沢)



9/8 ノジコ、ゲットしたぞや

準絶滅危惧種、ノジコをゲットしたぞや。杉沢の田中さんから窓ガラスにぶつかって死んだ鳥がいるが、名前がわからねえっちゃん連絡があつて、見に行ってきただ。一見、アオジに似てっども、眼の周りの白いアイリング、縦斑の少ない脇腹、黒っぽくない頭部などからノジコと鑑定したぞや。

さえずりも、アオジのさえずりより、ずっと上品で、鈴をころがしたよう。ただ、翼のおおまおおいがすべて抜けでいで、換羽中なのかもしれんねえ。秋の渡りの時期になつちゅうに、さすけねえがなど心配になつぞや。

全国的に少なく、生息場所は局所的。只見では、アオジよりノジコのほうが見る機会がおおい。手に取って見るのは初めてのごんだあ。よっばら、いじくつてがら、ブナセンターに持っていくぞや。(イサム)



9/10 9月の花暦調査

今月の花暦調査は、4人。途中、雨が降ってきたので、退散して11時半頃には下山。花はハギぐらいでしたが、キノコがたくさん出てました。帰り道でコナラの木の根元にでっかいキノコの株を発見。食べれそうだけど、よくわからないので持ち帰って、和子さんがキノコに詳しい人に見てもらったところ、オオワライタケと判明！ 食べると顔がひきつって笑っているように見えるという神経毒があるそうです。冬虫夏草のサナギタケも発見(写真)。しかも、なかなかの大型でした。(ゆたじー)



9/16 只見の山遊び

六十里越の除草剤散布の話聞き、東京への帰りは六十里越を選びました。福島県側の道路は除草剤がまかれ、植物が黒褐色に枯れ見苦しい状態でした。新潟県側はこのようなことはありませんでした。ユネスコエコパーク、自然首都・只見としてこれでよいのか。峠を越え大白川に向かう途中でライトグリーの花を沢山つけたコシアブラの大木に出会えラッキーでした。今回、只見の小屋で約2週間のんびり過ごしました。小屋の前のクリ林ではテングタケ、タマゴタケがみずみずしく顔を出していました。黒谷のフクジュソウ平では、オトコエシ、ヤクシソウ、ツリフネソウ、カワミドリ、ナンブアザミ、ミズヒキなどの花が咲き、ナンブアザミにミドリヒョウモンの雄が盛んに飛び回っていました。只見の山遊びは楽しいですね。



コシアブラの写真をパソコンで等倍表示して眺めていたところ、コシアブラ

の右隣にヤマグルマが写っていました。ヤマグルマは本来は常緑の高木ですが、浅草岳只見尾根、山頂稜線部では豪雪等の影響で小低木状です。撮影場所は毛猛沢を過ぎた末沢川左岸の斜面で、枝は横に段々に伸びる仮軸分枝で、果実をつけています。たぶん高木ではないかとおもわれます。国道から望遠レンズ(600mm相当)で撮影し、トリミングしています。こんな雪深いところで生育しているとは、感心しました。

(マコモ)



10/3 コノハズク、ゲット

コノハズク、ゲットしたずや。きんなの夜、上福井の国道さ落ちてだのを、こずえさんを見つけで回収、今朝、オラのどごさ連絡してけだあんだ。どごも痛んでねえ、きれいな成鳥。重さ94g。「声のブッポウソウ」どって、こだ小っちえ鳥が、幾山も遠いところから鳴いでんのが聞こえるっちゅうんだがらすげえな。これが南の国さ、帰る最中だったべども、惜しいごどしたもんだ。よっぱ写真撮って、プナセンターさ、預けだずや。来年あたりには、りっぱな剥製になってんべな。

(イサム)



10/6 今日のオスプレイ

今日の午後2時から3時ごろ伊南川上をオスプレイが飛行しました。1羽が上流より飛来し、館ノ川集会所前で魚を捕獲したのち再び上流側へと飛行していきました。また、もう1羽が檜戸橋街灯へ止まった後に魚を捕獲し、ハヤブサを追い立てながら下流側へと飛び去った模様です。(朗)



おんなじオスプレイでも、こだオスプレイの飛来なら大歓迎だあ。戦闘機は、みんな猛禽類の名前をつけたがんだで。んじゃども、わーが家から、オスプレイ(ミサゴ)とファルコン(ハヤブサ)が同時に見られる場所は、あんまあんめえな。(イサム)

10/23 またまたヤマネです

「おらいの猫が背中に黒い線があるネズミのようがな捕まえできたんだで」っちゅう電話がきんなの夜、かがって来た。「それってヤマネだべがら、取りに行んがら置いといでくんつえ」どってゲットしたあながこれ。只見町最奥の集落、布沢の大田の家だったずや。幼獣で、はあ(もう)、死んでだっけ。



さっそく、屍体いじり開始。まず、前足の親指が退化して痕跡化しちまっているな。つまり4本指だあ。あど、肉球がよく発達している。これは、木の枝さ、ぶらさがって移動するにはあんべえいいんだべな。体重15.5グラム。まあ、なんといつてもめげえ生き物だな、ヤマネは。(イサム)

10/23 家の前の土手に…



きんな、家の前の土手の草を引っこ抜いていたら、びっくりした。なんでこんなところにいるんでしょうか？ クロ

サンショウウオかトウホクサンショウウオだと思うのですが、おらには区別できません。どなたか教えてください。

(ゆたじー)

「あまり大きくなさそうなのと、背中が茶色っぽく体側に白い点が見えるので、トウホクサンショウウオだと思います。クロサンショウウオの場合はもっと大きくて体の色が均一です」と吉川さん(国立科学博物館)が同定してくれました。

(和子)

11/1 ニホンジネズミだぞや

こずえさんからもらったニホンジネズミだぞや。これも幼獣。叶津番所の裏で死んでたのを拾って届けてくっちゃ。一見、モグラの仲間のヒミズに似るけども、尻尾が長くで、足指も細い。普通にいんども、ながなが捕まんねーあんだ。



この前のコノハズクといい、気持ち悪がるごどもなく、なにかかと思って興味をもつこと。これがいちばん大事だど思う。なにか死んでるというだけで、気にかけることもなければ、確認記録もなく、それっきり。てなわけで、こずえちゃん、エライ！ この次は、なにかかな？

(イサム)

11/19 ヤマビコ

葉っぱを落とした晩秋の山で、ヤマビコを見つけだずや。ふづうは、高え枝の先ちょにぶらさがっていらんだが、これは腹より低ぐがっけな。そんじえいい写真、撮っちゃずや。



むがしの人、これを家さ持ちがえり、子めらの背中さ結っつけでおいだじゅ

う。また、エナギどって生まっちゃばっかの赤ん坊の産着のうしろの首根っこにも、豆ど昆布ど一緒に糸でつないでつけどいだじゅう。どっちも、風邪をひかないどか、健康を願ったあんだ。これ以外の用途は聞いたごどねえな。どーも、ヤマビコは子めら向けのよーだ。なに？ ヤマビコちゅうは、なんだど？ それは只見町史「民俗編」で調べつけやれ。

(イサム)

ヤマビコを調べました。ただし只見町史「民俗編」を持っていないので町史資料集の5「会津只の方言」で。

写真を見て思いましたがやはりウスタビガの繭でしたね。しかしどうして只見ではこのような使い方をするんですかね？ ウスタビガのウスタビは漢字で「薄手火」で、提灯を意味するそうです。

(あーきらー)

11/27 ヤマドリだぞや

ヤマサの順子アネがら、ヤマドリが八十里庵の看板の下で死んどるって電話があつたども、あいにく檜枝岐村さいで行くようねえどって言つたら、社長の弘あんにゃ自ら届けでけやつた。



「看板さ、ぶつかつたんでねーがー」どって言いやっけども、どーもそーではねーな。

首の骨が完全に折れでで、食道とまわりの筋肉が飛び出だしていだっけ。んじゃがら持ち上げと、首がダラと下がんだで。よっぽど強ぐ衝突したんでもなければ、こだにはなんめえーな。これは、ヤマドリが勢いよく道路さ頭がら突撃してで、猛スピードの車さ激突して、撥ね飛ばさつちやんだど思う。思いつきり頭がらぶつかつたんで、首がへし折らつちやんだべな。壮絶な最後だな。だども、ヤマドリは、野鳥の中でも、激突死する鳥のトップ3には入いんぞや。

しかし、ヤマドリって、ほんと、きれいな鳥だど思ったぞや。国鳥は、キジではなく、ヤマドリのほうが絶対いい。翼

や背中模様なんぞは、実にうつくしい！ 切り取れば着物なんかのデザインにぴったりだ。しばし鑑賞していただぞや。

(イサム)

12/1 こんだはモモンガだー

この前のやヤマネに続いて、またまた、布沢字大田の某宅の飼い猫フクくんが捕まえてきたあんだじゅう。絶滅危惧種ハンターだべな。だども、ここ大田では絶滅危惧なんちゅうもんでなく、普通種なんだべな。



そんでまた、死体検分したわけだが、前肢が面白しえー。指は4本しかねえ。5本目の指、つまり小指は、後ろ向きに長ーぐ伸びでいで、飛膜の中さはいつでいる。そして前肢からつながつている飛膜の端っこを支えている。これはバンドリ(ムササビ)もおんなじだあ。しかし、哺乳類の多様性はおもっしえな。空には飛ぶコウモリ、樹木間を滑空するムササビとモモンガ、地上にクマ、地中にはモグラ、水中はカワネズミ。空中、地上、地中、水中の四界にまで進出して繁栄してんのは、昆虫と哺乳類だけであんめーが。

(イサム)

12/7 ごほうびもらった

マタタビ採集に行った帰りゲットしました。只見では春から秋まで出るきので、ワケエって呼ばれて豆腐汁がうめーぞや。

(和子)



※ワケエはヒラタケの只見方言です。